

令和元年度ごみゼロやまがた推進県民会議産業部会議事録

《日時》

令和2年3月6日（金）13時30分～15時20分

《場所》

山形県庁 701会議室

《出席委員》（※会長、副会長、委員名簿順）

鈴木喜代壽委員（会長）、黒澤利宏委員（副会長（部会長））、阿部英弥委員、有海栄子委員、奥山恵治委員、川口正男委員、庄司里沙委員、丹野善将委員（代理：山形県環境整備事業協同組合 細川江里子氏）、長谷川正芳委員（代理：山形県食品衛生協会 小野保博氏）、原田周子委員

《産業部会》

1 開会

2 あいさつ

黒澤利宏委員（部会長）よりあいさつ

3 議事（座長：黒澤委員（部会長））

(1) 報告

- ① 第2次山形県循環型社会形成推進計画（ごみゼロやまがた推進プラン）
令和元年度 県事業の取組状況について
- ② 第2次山形県循環型社会形成推進計画（ごみゼロやまがた推進プラン）
令和2年度 県事業（予定）について

【事務局】（資料1～3により説明）

<質疑・応答>

質問等なし

- ③ ごみゼロやまがた推進県民会議各委員の所属団体における活動状況等について
（各委員から資料4により報告）

【黒澤委員（部会長）】

山形県産業資源循環協会では、1やまがた環境展で展示ブースを設置し、産業廃棄物処理工程パネルの展示、また、廃棄物全般についての環境クイズ、リサイクル自転車の来場者抽選会を行い、廃棄物に関する啓発を行った。また、併せてリサ

イクル自転車を提供した。2県の市町村ごとに設置されている不法投棄防止対策協議会に助成するとともに、原状回復作業に専門部会員が協力した。

やまがた環境展調整会議において、料理をおいしく食べきるため、2010運動を呼びかけ、食べ残しを出さないように努めた。

令和2年度の3Rに向けた活動目標として、令和元年度の活動を継続していく。

【鈴木委員（陪席：河合委員）】

山形県環境保全協議会としては主に3つの活動に取り組んだ。1つ目は、当協議会総会の後に企業等交流会（懇親会）を開催し、その参加者60名に対して30・10運動を呼びかけた。環境省の三角柱ポップを各テーブルに配置し、当日、司会からも30・10運動と食品ロス削減について協力を呼びかけた。この度、県でも三角柱POPを作ったので、今後活用していきたい。立食式の宴会になり、当日、料理が残ってしまい、中締め後、比較的若い方に声をかけて、会場を使えるぎりぎりまで残って食べきりをお願いした。このように事務局で誘導すると食品ロス削減につながるので、今後も取組みを続けたい。

当協議会として山形環境展に出展した。会員企業約200社に出展依頼及び当日の参加を呼び掛けた。

今年度新規の取組みとして、「プラスチックごみ問題に関するセミナー」を開催した。内容として、マイクロプラスチックの問題について東京農工大の先生からしてもらった。また、環境省東北地方環境事務所からプラスチック資源循環及びバーゼル条約の改正について話をしてもらった。

外食時のおいしい食べきりキャンペーンについては、県が提供されたチラシ、ポスター、ポップを会員企業に提供した。

令和2年度の3Rの目標として、①当協議会の総会後の企業等交流会（親睦会）で、30・10運動を呼びかけたい、②やまがた環境展に出展し、会員企業に出展及び参加を呼びかけたい。

【阿部委員】

商工会議所連合会としては、例年同様、使用済用紙や古紙等を分別しリサイクル活動や3010運動を推進している。今年の2月に東北六県の45の商工会議所専務理事の会議があり、会議終了後の懇親会で3010運動の呼びかけを行った。県で作成したポスター、三角柱POPを県内の各商工会議所に送った。今回は、忘年会が近くなつてから県から配布されたので、来年度はもう少し早く配布いただければよかった。

来年度の活動については、古紙のリサイクルと3010運動を中心に取り組んでいく。

【有海委員】

山形県JA女性組織協議会としては、昨年と同様に食品ロス削減のためにフードドライブに取り組んだ。会員にも定着してきているので、今後も引き続きやっていきたい。この活動から賞味期限や消費期限を気にするようになり、消費者としてもよい結果につながっている。

節電による環境保全、防災について考える取組みとして、夜8時から8分間消灯することにより、節電による環境保全や防災について考える時間とすることを目的

に、「88（パチパチ）運動」を全国会員が取り組んでいる。

3010運動も実施し、おいしく食べきろうと呼びかけている。

引き続き取り組み、会員に定着させていきたい。

【奥山委員】

日本青年会議所東北地区山形ブロック協議会として、各地の17青年会議所にごみ削減運動を呼びかけており、また、ブロック大会でも同様に呼びかけた。

また、3010運動を懇親会や会合等でよく呼びかけている。その中で特に気を付けているのが、多く注文することなく食べきれぬ量を注文することを心がけるように呼びかけた。

令和2年度も同様に取り組みを進めるほか、SDGsの観点からメンバーの企業に環境問題やリサイクルの問題について広く学ぶ機会と、企業が取り組めるようセミナーを通じて呼びかけている。

また、再生可能エネルギーについて高校生に出前授業ができるよう計画し、また、今年は高畠のブロック大会でも、広く県民に再生可能エネルギーについて伝えていく予定。

【川口委員】

山形県電機商業組合として、家電リサイクルの推進を行っている。

本年度は、省エネ家電マーケットモデル事業として、5つ星の非常に省エネになっている商品に限られているが、その冷蔵庫・エアコンに国から補助金が出て、省エネのための買い替えを促進した。

また、紙関係で、なるべく雑紙を出さないということで、裏紙とFAXを極力使用している。

我々も会議が多いが、食品ロス削減のため、3010運動に取り組んでいる。

レジ袋削減として、なるべくお客に小さいものもそのままお渡ししてレジ袋を使わないよう心がけている。

個人的には思うが、小型家電のリサイクルについては、なかなか進んでいない。

リサイクル用のビニール袋があるが、それが若干小さめで、大きい小型家電が入らない。そうすると、500円の券を買って貼るのも抵抗があって、お年寄りも集積所までも持っていけない。我々に依頼があって持ってくるが、我々も困っているのが現状。埋め立てゴミというと、コンテナを頼んでそれに入れてそのまま埋め立てに行く。その辺もちょっと考えてもらおうとリサイクルに回るのではないかと思う。

【工藤委員】

やまがた女将会としては、各旅館、一部旅館の取り組みになるが、宴会の幹事の方に打合せの段階で、3010運動の呼びかけをお願いしている。以前は、山形流のおもてなしというか、食べきれぬ量を出すと大変喜ばれた時代もあったが、最近のお客は食べきれぬ量を出すとクレームになったり、アンケートの評価が悪くなる傾向である。量より質の献立を検討し、食べきれぬ量が満足となっている。大きな旅館では、ペーパーにおける歓迎看板を廃止し、全く玄関前には出さない。デジタル化で電子表示の看板を設置する旅館もあった。割り箸については、だいぶ進んでお

り、割り箸よりもリサイクルのプラスチックの箸を使用しているところが多くなった。売店の包装も全てを包装するのではなく、ギフトのもの、お土産でお渡しする物のみ包装することとして、包装紙の削減、ごみの削減を促している。

環境保全として、旅館の経費で水道光熱費は大きい数字であり、節電、節水のほか、だいぶLED化も進んでいる。各種助成金や旅館組合のスポンサーでレンタルをする会社もあることから、旅館の中ではLED化がだいぶ進んできているところも出てきている。

【庄司委員】

山形県再生資源商工組合として、1つには、定時総会時の会食の事前オーダーを行っている。お弁当を出すと食べ残しが多く出たため、事前に会食のオーダーを取って、各自食べたいものをオーダーするシステムが定着しつつある。

2つ目として、会議資料の一部簡略化や、コピー用紙の削減、裏紙の利用も各事業所でしているが、会議資料の削減を今年度はわりと取り組んでいた。

3つめとして、各事業所でシュレッダー処理の見直しについて、会議の度に声を続けて、個人情報が含まれない書類については、不必要なシュレッダーをかける必要がないのではと声をかけたところ、シュレッダーの処理代がなくなってよかったとの声も多く聞かれた。今後も声を続けていく。

当組合は、再生資源物を扱う企業の集まりになるので、各事業所でのリサイクル、分別はわりと取組みが進んでおり、廃棄物は少なくなっているが、そこから先に取り引先のお客への廃棄物分別指導を心がけようと声を始めたところ、わりと問い合わせも各企業増えたという報告が入っており、古紙についてはもちろん、産業廃棄物の中でリサイクル可能なビニール類がないだろうかとの声があったり、少しずつ、お客の中でもリサイクルの意識が高まっていると今年度実感できた。

食べきりキャンペーンについては、懇親会で食べ残しがないように声をかけた。3010運動は中々厳しいものがあって、30分着座というのは年代的にも難しいことがあったので、後半、宴会締め切り20分前くらいに声をかけて、そろそろお時間が近づいたので一度席に戻ってお食事をとということとどめたが、それでもかきこむ様に食べきって帰ってもらえたと思う。

令和2年度についても、今年度の取組事業を継続して、もっと活気よく取り組めるよう頑張りたい。

【丹野委員（代理：細川事務局）】

山形県環境整備事業協同組合としては、例年同様に次の3つの取組みを行った。

1つ目は、廃棄物の適正な処理による環境負荷の低減、廃棄物の適正処理の推進、廃棄物の不法投棄の防止に努めた。2つ目は、宴会時の食べ切り運動、3010運動の呼びかけ、3つ目に裏紙の利用とFAX用紙の出力削減に取り組んできた。

おいしい食べきりキャンペーンについては、今年1月に開催した役員会新年会で、3010運動の呼びかけと県で作成した三角柱POPをテーブルに置いて、司会者から呼びかけをしてもらい、食べ残しを出さないように努めた。

令和2年度も同様の活動に取り組む、4つ目に、災害時体制の構築として、山形

県との「災害一般廃棄物の収集運搬に係る協定書」に基づき、被災市町村及び関係団体と連携し、災害廃棄物処理体制を構築したい。

【長谷川委員（代理：小野専務理事）】

山形県食品衛生協会としては、1つ目は食品衛生責任者養成講習会で、これは食品営業施設に1名以上置かないといけないこととなっており、この方々を養成する講習会であり、公衆衛生学の講義の中で、廃棄物の話をするのでごみ削減について理解を求めている。

2つ目は、もったいない山形協力店については、食品衛生責任者養成講習会、7月に開催する山形県食品衛生推進大会、指導員の会議等において、協力店登録のPR、情報提供を行った。

来年度も、同様の事業を行うということを考えている。

【原田委員】

山形県商工会女性部連合会は、県内の24の商工会女性部があり、各支部で目標を立て取り組んでいる。内容は資料23ページにあるが、支部によって取組みに差がある。今年度は各支部の部長が集まり、意見交換をし、各支部でできることを増やしていく取組みをした。

3010運動については、女性部でかなり実施されていると思う。女性部以外の男性も入った懇親会のときなども、女性部が声を上げて3010運動に取り組んでいこうという認識になった。

プラスチックごみに関しては、かなり問題意識は持っているが、取組みの方向性がつかめていないのが現状である。

【事務局】（欠席委員の活動状況について、資料4により説明）

(2) 協議

① 令和2年度「ごみゼロやまがた県民運動」（職場編）展開方針（案）について

【事務局】（展開方針（原案）について、資料5により説明）

<質疑・応答>

質問等なし

【黒澤委員（部会長）】

令和2年度ごみゼロやまがた県民運動（職場編）展開方針として、食品ロス削減運動（食べきり運動）、プラスチックごみ削減運動、環境にやさしい製品の優先購入運動の3つを展開方針案として総会に提出することでいかがか。

【各委員】

異議なし（了承）

② 令和2年度「ごみゼロやまがた県民運動」の活動内容（案）について
【事務局】（資料6により説明）

<質疑・応答>

質問等なし

【黒澤委員（部会長）】

産業部会として、令和2年度「ごみゼロやまがた県民運動」の活動内容（案）について了承し、総会に提出することでいかがか。

【各委員】

異議なし（了承）

(3) その他

なし

4 その他

【事務局】

- ・5月下旬頃に総会を開催する予定であることを説明。
- ・令和2年度は、県民会議の各部会を年度末のほかに、7月～9月にもう1回追加して開催し、次期山形県循環型社会形成推進計画の素案を説明し、意見を伺うことを説明。

5 閉会